

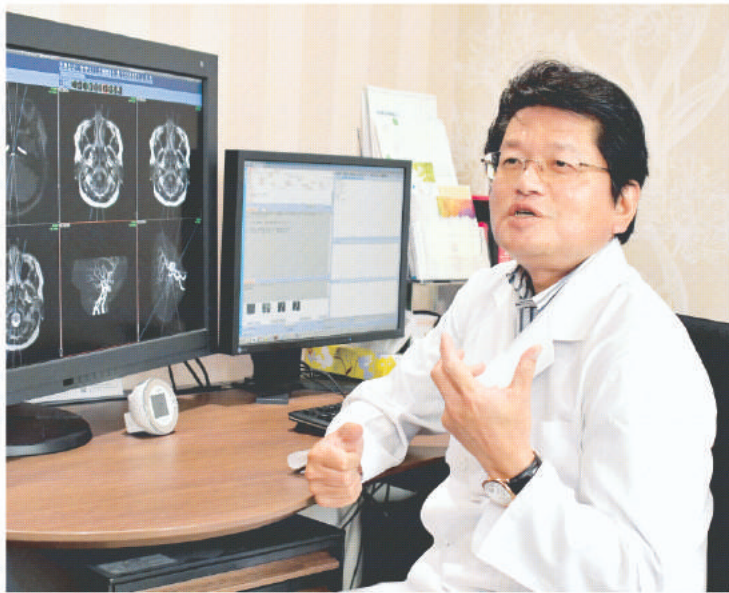
いま知ってほしい 認知症のこと

企画・制作 下野新聞社営業局

医療法人D I C 宇都宮セントラルクリニック 理事 放射線科専門医 佐藤俊彦氏

PETとサプリで予防

超高齢社会の進展とともに、クローズアップされるのが認知症患者の急増です。2025年には国内の認知症患者は700万人を超え、「認知症予備軍」である軽度認知障害(MCI=マイルド・コグニティブ・インペアメント)を加えると約1300万人になるといわれています(厚生労働省調べ)。これは高齢者(65歳以上)の3人に1人が認知症あるいは軽度な認知症であるということです。しかし、認知症は早期に見出し、適切に対処すれば防げる病気でもあります。2003年から、県内初となるPET(陽電子放射断層撮影装置)による画像診断を導入している佐藤俊彦氏(医療法人D I C宇都宮セントラルクリニック理事・放射線科専門医)に、早期の認知症診断と予防法などについて聞きました。



「一言で認知症といってもどのような病気があるのでしょうか。認知症は、「変性性認知症」「二次性認知症」と「機能的認知症」(一)に分類され、変性性認知症は、「アルツハイマー型認知症」、男性に多く起る「レビー小体病」(認知症を伴うパーキンソン病)などがあり、機能的認知症は、脳梗塞などの血管性認知症、その他、感染による「クワイフェルト・ヤコブ病」という病気も起ります。その中で最も問題になっているのが、患者さんが多いのがアルツハイマー型です。脳が萎縮し脳細胞が減少していく病気で、治療法はありませんし、認知症の症状を緩和する薬はあっても根本的に治せるものはありません。また、ごく少数ですが、遺伝的要因による「家族性アルツハイマー型認知症」があり、これは親族に多く見られる場合が多いです。その中で8割まで発症率は上がります。いずれにしても、ほとんど軽度なうちに発見して適切なケアしその芽を断つことが大切です。そこで有効になるのが画像検査です。

「画像検査にも幾つかの種類がありますが、PET(陽電子放射断層撮影装置)による画像診断は、CT(エックス線断層撮影装置)、MRI(磁気共鳴画像装置)、SPECT(単一光子放射断層撮影)などがありますが、宇都宮セントラルクリニックでは、その他に2003年からPET(陽電子放射断層撮影装置)を導入し、FDG(フルオロデオキシグルコース)PETで独自の「SPM脳機能画像解析ソフト」により、MCIなど早期の異常でも正常な状態の診断画像のデータベースと比較します。画像のピクセルごとに一つ一つチェックしながら、どの程度ずれが生じているかを解析していきます。これによりMRIでは読み取れなかった異常を読み取ることが可能です。そのほか、検査を実施しない「異常なし」、あるいは「多発性多系統萎縮」など診断され、認知症の診断が遅れ、より進行してしまう例もあります。

「加齢とともに認知機能が衰えるのは避けられないのでしょうか。いえ。たとえ、脳に変性があったとしても、人間には「認知予備能力」という認知症を代償する作用があります。これを高める事によって、正常な社会生活を営むことが可能になります。例えば「ジャグリング」しながら、100から7ずつ引き算していく」といように、運動しながら、脳を使うといった訓練で高められます。

「早期に発見する一方で、予防という点では、どのような研究が進められていますか。長らくアルツハイマー型認知症の原因は「アミロイド仮説」というタンパク質が固まってできた脳内の「老人斑」などにより、脳神経細胞に障害が起るとされてきましたが、佐賀女子短期大学の長谷川孝昌教授が、アルツハイマー型認知症の原因は「ホモステイン酸」にある事を究明しました。血中のホモステイン酸の濃度と認知機能が反比例する事を突き止めた。このホモステイン酸を還元し、無毒化するアルツハイマー型認知症を予防できるのではないかとこの研究を進めてきました。そこで考えたのが還元剤の一つである水素を主体としたサプリメントです。91人のアルツハイマーの患者さんに水素サプリの臨床試験を行いました。その結果、血中のホモステイン酸値が減少し、認知機能が「驚くほど回復する」と分かりました。日常生活の中で、ポリフェノールなど還元剤を含む食品がありますが、それらも認知症の予防には有効なんでしょうか。

長谷川先生の研究では、ホモステイン酸を減らすには緑茶をはじめ、イソフラボンというポリフェノールを含む大豆、ブルーベリー、赤ワイン、カカオ、コヒーなどが挙げられています。もう一昔前ですが、テレビCMやバラエティ番組などで活躍したきんさん(成田さん)、きんさん(藍江さん)は100歳を超えても元気なおばあちゃんでしたが、亡くなった後に、明らかアルツハイマー型認知症であったことが分かりました。超高齢社会となり、認知症は減ることはなく、ますます増える一方で、しかしながら、私も折に触れ、認知症に関する講演をさせていただいていますが、まだまだ一般の方には関心が薄いですね。「自分にはならないだろう」とあるいは発症した方は、もう既に自分が認知症であることを見ても驚かなくなるまでになっている場合もあるわけです。変性性認知症には、残念ながら薬も治療法もありません。ですから、早期に認知症の芽を摘んで、そして私どもが薦める水素サプリメントや、ケトン食、さらには、認知予備能力を高める日常の努力を続け、健やかな老後を過ごしていただけたらと思います。認知症の症状が出てしまってからでは遅いのです。65歳以上になったら、がん検診や、人間ドックと併せて認知症検診を受けてもらいたいと思います。

「PETによる画像診断の有用性にいち早く着目し、認知症への早期対応も訴えてきた佐藤俊彦先生は、もう一方の方策として「食」による認知症の予防にも努めている。アルツハイマー型認知症の原因は「ホモステイン酸」にあることを究明した長谷川孝昌先生と出会ったのは昨年8月。『素晴らしい論文を発表されている』(佐藤先生)と思ひ、知人の紹介で「ぜひ、臨床現場で利用可能なサプリメントを作らせてほしい」と依頼した。そして完成したのが、ホモステイン酸を還元できるサ

末期の認知症 つらい最期に

「認知症が進行するにつれて、ある患者さんの例では、異常が見つからず、適切なケアができないまま4年後には末期症状となり、社会生活が不可能な状態にまでなっていました。その患者さんも、このほど亡くなりましたが、家族や周囲から、その死を悼まれました。もう一つ、そのような最期はともわらないものです。そうならないために、高齢者になったならFDG-PETによる定期的な検査を受けるべきです。MRIには限界がありますが「認知症予備軍」であるMCIのレベルのうちに、攻めの診断・治療を積極的に進めるべきなのです。

「PETによる画像診断の有用性にいち早く着目し、認知症への早期対応も訴えてきた佐藤俊彦先生は、もう一方の方策として「食」による認知症の予防にも努めている。アルツハイマー型認知症の原因は「ホモステイン酸」にあることを究明した長谷川孝昌先生と出会ったのは昨年8月。『素晴らしい論文を発表されている』(佐藤先生)と思ひ、知人の紹介で「ぜひ、臨床現場で利用可能なサプリメントを作らせてほしい」と依頼した。そして完成したのが、ホモステイン酸を還元できるサ



「PETによる画像診断の有用性にいち早く着目し、認知症への早期対応も訴えてきた佐藤俊彦先生は、もう一方の方策として「食」による認知症の予防にも努めている。アルツハイマー型認知症の原因は「ホモステイン酸」にあることを究明した長谷川孝昌先生と出会ったのは昨年8月。『素晴らしい論文を発表されている』(佐藤先生)と思ひ、知人の紹介で「ぜひ、臨床現場で利用可能なサプリメントを作らせてほしい」と依頼した。そして完成したのが、ホモステイン酸を還元できるサ

「PETによる画像診断の有用性にいち早く着目し、認知症への早期対応も訴えてきた佐藤俊彦先生は、もう一方の方策として「食」による認知症の予防にも努めている。アルツハイマー型認知症の原因は「ホモステイン酸」にあることを究明した長谷川孝昌先生と出会ったのは昨年8月。『素晴らしい論文を発表されている』(佐藤先生)と思ひ、知人の紹介で「ぜひ、臨床現場で利用可能なサプリメントを作らせてほしい」と依頼した。そして完成したのが、ホモステイン酸を還元できるサ

「PETによる画像診断の有用性にいち早く着目し、認知症への早期対応も訴えてきた佐藤俊彦先生は、もう一方の方策として「食」による認知症の予防にも努めている。アルツハイマー型認知症の原因は「ホモステイン酸」にあることを究明した長谷川孝昌先生と出会ったのは昨年8月。『素晴らしい論文を発表されている』(佐藤先生)と思ひ、知人の紹介で「ぜひ、臨床現場で利用可能なサプリメントを作らせてほしい」と依頼した。そして完成したのが、ホモステイン酸を還元できるサ

先達に敬意を表しサプリ開発

「PETによる画像診断の有用性にいち早く着目し、認知症への早期対応も訴えてきた佐藤俊彦先生は、もう一方の方策として「食」による認知症の予防にも努めている。アルツハイマー型認知症の原因は「ホモステイン酸」にあることを究明した長谷川孝昌先生と出会ったのは昨年8月。『素晴らしい論文を発表されている』(佐藤先生)と思ひ、知人の紹介で「ぜひ、臨床現場で利用可能なサプリメントを作らせてほしい」と依頼した。そして完成したのが、ホモステイン酸を還元できるサ

「PETによる画像診断の有用性にいち早く着目し、認知症への早期対応も訴えてきた佐藤俊彦先生は、もう一方の方策として「食」による認知症の予防にも努めている。アルツハイマー型認知症の原因は「ホモステイン酸」にあることを究明した長谷川孝昌先生と出会ったのは昨年8月。『素晴らしい論文を発表されている』(佐藤先生)と思ひ、知人の紹介で「ぜひ、臨床現場で利用可能なサプリメントを作らせてほしい」と依頼した。そして完成したのが、ホモステイン酸を還元できるサ

「PETによる画像診断の有用性にいち早く着目し、認知症への早期対応も訴えてきた佐藤俊彦先生は、もう一方の方策として「食」による認知症の予防にも努めている。アルツハイマー型認知症の原因は「ホモステイン酸」にあることを究明した長谷川孝昌先生と出会ったのは昨年8月。『素晴らしい論文を発表されている』(佐藤先生)と思ひ、知人の紹介で「ぜひ、臨床現場で利用可能なサプリメントを作らせてほしい」と依頼した。そして完成したのが、ホモステイン酸を還元できるサ

「PETによる画像診断の有用性にいち早く着目し、認知症への早期対応も訴えてきた佐藤俊彦先生は、もう一方の方策として「食」による認知症の予防にも努めている。アルツハイマー型認知症の原因は「ホモステイン酸」にあることを究明した長谷川孝昌先生と出会ったのは昨年8月。『素晴らしい論文を発表されている』(佐藤先生)と思ひ、知人の紹介で「ぜひ、臨床現場で利用可能なサプリメントを作らせてほしい」と依頼した。そして完成したのが、ホモステイン酸を還元できるサ

「PETによる画像診断の有用性にいち早く着目し、認知症への早期対応も訴えてきた佐藤俊彦先生は、もう一方の方策として「食」による認知症の予防にも努めている。アルツハイマー型認知症の原因は「ホモステイン酸」にあることを究明した長谷川孝昌先生と出会ったのは昨年8月。『素晴らしい論文を発表されている』(佐藤先生)と思ひ、知人の紹介で「ぜひ、臨床現場で利用可能なサプリメントを作らせてほしい」と依頼した。そして完成したのが、ホモステイン酸を還元できるサ

本特集についての問い合わせは、宇都宮セントラルクリニック ☎028・657・7300へ。

第8回 いっしょに読もう! 新聞コンクール

日本新聞協会は、今年も「いっしょに読もう!新聞コンクール」を実施します。家族や友人といっしょに記事を読み、感想・意見などを書いて、記事とともに応募いただく新聞感想文コンクールです

- 1 新聞を読もう
- 2 記事を決めよう
- 3 記事を読んで考えたことを書こう
- 4 家族や友だちに意見を聞こう
- 5 まとめよう
- 6 応募しよう

対象 小・中・高校・高等専門学校生

募集要項 2016年9月9日(金)~2017年9月7日(木)の新聞から興味を持った記事を切り抜いてください。それを家族や友だちにも見せて意見を聞いたり話し合ったりして、応募用紙に記入して記事といっしょに送ってください

応募先 応募・お問い合わせ先は地域で異なります。応募対象となる新聞名一覧と併せてNIEウェブサイト(http://nie.jp/)でご確認ください

締め切り 2017年9月8日(金) 必着

賞

個人賞 最優秀賞 小・中・高校(高等)別に各1編(計3編)
賞状・記念品・図書カード3万円

HAPPY NEWS賞 [1編]
「新聞を読んで思ひもなかったものや人との出会いがあった」「新聞から新しい何かを発見した」という記事を選び、新聞の魅力を伝えた応募作から選ばれます
賞状・記念品・図書カード1万円

優秀賞 小・中・高校(高等)別に各10編(計30編)
賞状・記念品(オリジナルグッズ)

奨励賞 100~120編程度
賞状・記念品(オリジナルグッズ)

学校賞 優秀学校賞 小・中・高校(高等)別に各5校
賞状・記念品

学校奨励賞 一定の基準を満たした学校に贈賞
賞状

※ 結果は11月下旬に新聞紙面、NIEウェブサイトでご発表します

主催: 一般社団法人日本新聞協会
後援団体: 文部科学省、公益社団法人全国学校図書館協議会、公益社団法人日本PTA全国協議会、公益財団法人文字・活字文化推進機構、日本NIE学会、全国新聞教育研究協議会

一般社団法人 日本新聞協会 TEL03-3591-4410